

義太夫

竹本土佐廣師を偲ぶ

義太夫協会会長 田 辺 秀 雄

義太夫協会会報

第55号

平成4年9月1日

社団法人 義太夫協会発行

〒104 東京都中央区銀座

6-18-2 新橋演舞場B2

TEL (3541)5471

この春綾之助師を失ったばかりというのに、また七月の終わりに土佐廣師匠の悲しい知らせを聞くことになってしまった。私は七月下旬には十日ばかり中国の上海を中心に民衆の歌を採集する旅を行っていた。連日三十八度という猛暑の中で普段では到底経験出来ない強行軍が続き、それでも何とか事故も病気もなかったとは言え、大阪で国内線に乗換え、深夜にやっと帰宅した私には翌日朝事務局長からの電話で悲報を聞いたわけである。既に密葬は過ぎていたが、やっと本葬には間に合ったが、何の用意も出来なかった。

私は土佐廣師匠の芸は種々な邦楽の会や、レコード、放送などで前から聴いていて、その芸の見事さにはいつも感激していた。六年前この協会の会長を引受けることになり、毎月本牧事でゆっくり聴けると楽しみにしていたのだが、それも束の間、その中にプロには出演が載せられているのに実際は休演が続いて、勿論私だけではなく、多くの義太夫愛好者がかっかりさせていた。だがそれは健康の面でやむを得ないことであった。またそれは協会を巻き込んだ或る問題の為かも知れないが、それには触れないことにして置こう。

師匠が人間国宝になられた時も私はその委員の一人であった。その二年前文楽以外の義太夫節も重要文化財であるということから、その保存会を作り、団体指定が行われることになった。その技芸員代表が土佐廣師であったが、重ねて個人での指定となったわけである。人間国宝と世間では言われているが、実はこれは芸術上価値が特に高いか、芸能史上重要な地位を占めるものなどを、国がその保存を計るために重要無形文化財として指定し、それを高度に表現、技法を正しく保ち、後世に伝承せしめ得る者とその文化財の保持者として認定するものである。

だから勲章や褒章、芸術選奨その他とは異なって単なる名誉称号だけではないのである。即ち次の世代への正しい伝承という大きな責任や義務を持っている。その為に年金が付いている。その年金の為に予算があり、自由にその数を増減するわけには行かないのである。それがよく誤解されて義務を軽視する人もないわけではないが、その人間国宝の責任を今まで土佐廣師匠は実によく果たして来られた。特に舞台へ出ると血圧が急に上がるという晩年にあつては、子飼いの弟子だけでなく、既にプロとして世間に立っている人達まで、別け隔て無く指導を行って来たと言わされて

新役員就任ごあいさつ

残暑お見舞い申し上げます。
 皆様におかれましては、益々御清栄のこととお慶び申し上げます。
 平成4年6月27日の総会において、任期満了に伴う役員改選が行なわれ、新役員が選出されましたので御報告申し上げます。
 向後3年間、左記の陣容で運営して参ります。今後とも一層の御支援御鞭撻を賜りますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

〔役 職 一 覧〕

(五十音順 ※印新任)

田 辺 秀 雄	副 会 長
竹 本 朝 重	会 長
竹 本 駒 之 助	常 務 理 事
竹 本 越 道	理 事
竹 本 素 八	理 事
竹 本 弥 乃 太 夫	理 事
竹 本 綾 一	理 事
竹 本 綾 太 夫	理 事
竹 本 越 孝	理 事
竹 本 越 若	理 事
竹 本 駒 龍	理 事
竹 本 土 佐 子	理 事
鶴 澤 駒 登 久	理 事
鶴 澤 重 輝	理 事
鶴 澤 悠 美	理 事

理 事

監 事

相 談 役

参 与

名 誉 会 長

豊 澤 瑩 緑 ※
 豊 澤 源 平 ※
 豊 澤 幸 治 ※
 野 澤 吉 平 ※
 景 山 正 隆 ※
 佐 々 木 明 郎 ※

豊 澤 猿 三 郎

竹 本 春 華
 竹 本 染 登
 鶴 澤 津 賀 昇

吉 川 英 史

〔業 務 分 担〕

(*印責任者)

研修部 (技能向上および後進育成)

*竹本朝重 *竹本駒之助 *竹本弥乃太夫

普及部 (義太夫教室 学校巡演 教師のため)

の義太夫講習会 一日体験教室)

*竹本弥乃太夫 竹本綾貴世 竹本越京

竹本駒国 竹本駒輝 竹本土佐恵 竹本

土佐子 竹本弥栄 鶴澤駒治 鶴澤寿々

方 鶴澤津賀寿 鶴澤悠美

公演部 (各種公演の企画)

*竹本朝重 *竹本駒之助 竹本綾一

竹本越孝 竹本土佐子 豊澤幸治

編集部 (会報その他)

*竹本越孝 鶴澤津賀寿

資料・記録部

*竹本越若 竹本葵太夫 竹本素丸

経理部

*竹本弥乃太夫 竹本越若 竹本弥栄

竹本佳之助

渉外・広報部

*竹本綾太夫 竹本朝重 竹本駒之助

備品部

*野澤吉平 鶴澤宏太郎 豊澤菊二郎

野澤松也

人間国宝 竹本土佐廣師逝去



竹本土佐廣師

平成4年7月27日、人間国宝・竹本土佐廣師が亡くなりました。同月29日、お身内だけで密葬。桐ヶ谷斎場にて、8月1日に通夜、2日に葬儀・告別式が営まれました。

享年95歳と聞けば、普通なら大往生ということになるのでしょうが、土佐廣師の場合は、百五歳という女流義太夫の先輩・竹本小土佐師の例もありますし、何と云ってもついこの間までお稽古をつけていたことを皆知っていますから、だれもが惜しい、信じられないという気持を拭えませんでした。

土佐廣師は、戦後40年にわたって、毎月行なわれた本牧亭での女流義太夫演奏会に、率先して出演しつづけ、女流義太夫の魅力を広

めた最大の功労者です。平成2年本牧亭が閉鎖されたため、女流義太夫演奏会は国立演芸場に移りましたが、その第一回公演には出演最後の舞台は、平成2年11月「第2回竹本土佐廣となごむ会」における野崎村の久作でした。後継者の指導にも力をいれ、昨年9月までは稽古を続けておられましたので、94歳まで現役として活躍していたわけです。その枯淡な芸は女流義太夫の最高峰でした。吉川英史名誉会長の弔辞・館野善二相談役のお別れの言葉は、告別式会場で読み上げられたものを掲載させて頂きました。また、喪主をつとめられた御三女・春日とよ晴妙師をはじめゆかりの方々に思い出などをお寄せ頂きました。

竹本 土佐廣

(本名 石丸 いと)

「年 譜」

明治30年 7月9日大阪に生まれる

40年 鶴澤勇造に手ほどきを受ける

42年 竹本伊達太夫(のちの六世竹本土佐太夫)に入門、竹本伊達子(だ

てこ)となる

明治43年 大阪「南歌久」にて初舞台
天才少女と人気者になる

以後、竹本源太夫、三世鶴澤清六に師事

大正7年 東京浅草パテール館にて真打披露

東京に活躍の場を移し、東京でも人気を博す

以後、鶴澤観西翁、鶴澤勝鳳に師事

昭和16年 竹本伊達子あらため竹本土佐廣(とさひろ)となる

以後、四世鶴澤清六、四世鶴澤綱造、七世野澤吉兵衛、鶴澤寛治等に師事

45年 社団法人義太夫協会理事

46年 勲五等瑞宝章

49年 芸術選奨文部大臣賞

55年 重要無形文化財「義太夫節」総合指定保持者

57年 「義太夫節保存会」技芸員代表
重要無形文化財保持者(人間国宝)
芸団協(日本芸能実演家団体協議会)芸能功労賞

58年 人形浄瑠璃因協会賞

60年 社団法人義太夫協会名誉会員
社団法人日本演劇協会長老賞
勲四等宝冠章

平成4年 7月27日午後5時27分 横浜市緑区の長津田厚生総合病院にて、心不全により逝去 (享年95歳)

戒名 糸浄院釋土佐廣禪定尼

弔 辞

重要無形文化財保持者(人間国宝) 竹本土佐廣さんの御霊前に謹んで哀悼の意を表します。

私が直接あなたを知るようになったのは、NHKの放送と、NHK邦楽技能者育成会の仕事が取持つ縁によるものであります。

しかし、それより以前、昭和二十一年四月八日にNHK(JOAK)から、豊澤猿幸さんの三味線で「明烏」の「山名屋の段」を語っておられます。これはAKから放送された戦後最初の義太夫の放送であったようで、これは当時の東京の義太夫界における土佐廣さんの名声の高かったことを、裏書きするものであります。

その後、義太夫協会の会報や本牧亭の舞台での芸談をお聞きして色々感服しましたが、中でも私の心に強く残っておりますのは、次のような事でありました。



葬儀委員長
吉川 英 史 氏

竹本伊達太夫(後の土佐太夫) 師匠の宅に朝五時から起きて遠い路を通うのに、師匠は文楽の出番のため時間がなくなつたからと、「今日は休みや」といって、あなたがけいこして貰えるのは、三日か四日に一度位しかないで、師匠の奥さんが気の毒がると、師匠は「何いうてんのか、家の敷居またいだら稽古になっているんやから：：一といわれたらこのこと。この師匠の見識と弟子であるあなたの我慢強さと素直さには感服致しました。

また、その頃路を歩く時でも稽古の事で頭が一杯なので、よく看板や電信柱に頭をぶつつけたというお話には、少女時代からのあなたの芸熱心さに感服の外ありません。あなたが「天才少女」と言われた陰には、この熱心さと努力があったのだということが良く分かりました。

そのご努力が実って、二十になるかならずで「真打」という名誉ある位置に昇進されましたが、決して慢心することなく、その後も文楽の最高の太夫や三味線弾きについて、本格的な稽古を続けられました。その成果は後年の義太夫節保存会の技芸員代表、更には女流義太夫の人間国宝第一号として実を結んだ訳であります。

その後は本牧亭の定例公演を中心に、放送にレコードに、その至芸をお聴かせ頂きましたが、特に晩年は後進の指導育成にご尽力くださいました事は、義太夫協会会員一同の感

謝に堪えない所でありました。義太夫協会を代表して、厚く御礼申し上げます。

土佐廣さん、あなたは女流義太夫華やかなりし時代に生を受けられました。女流でなく、男性の名人から芸を仕込まれた代表的な女流義太夫家でした。その結果、あなたは「ドーブル連」時代の卑俗な娯楽本位の芸としての女流義太夫を芸術本位の芸に高められた代表的な存在でありました。

残念ながら第二次大戦時代の反文化的環境により、女流義太夫も低迷を余儀なくされましたが、今や日本の国力を背景に、日本の伝統文化・伝統の価値は、欧米の注目を集めつつあります。しかし、土佐廣さんは、女流義太夫の華やかな復興を見る事なく、我々に別れを告げて逝かれました。あちらにはあなたの恩師や先輩たちが沢山おられて、温くあなたを迎えて下さる姿が目に見えるようです。そしてあなたの事ですから、早速気に入りの三味線弾きを見つけてお得意の曲を語られるだろう。などと思像を巡らすと、永遠の別れの悲しさも、少しは紛れるか：：と思えますが：：

現在の義太夫協会の事情はご存知の通りです。どうか霊ながらに協会の発展をお助け下さい。

土佐廣さん、本当に長い長い間有り難うございました。

平成四年八月二日

社団法人義太夫協会
名誉会長 吉川 英 史

お別れのことば

知死期、という言葉がございませう。

人間は、生れた日や時に応じて、その最後が決められているということです。

土佐廣おツ師匠さんは、明治三十年丁酉七月九日にお生まれになり、平成四年壬申七月二十七日の夕方、五時二十七分に、息を引き取られました。

近松門左衛門の「知死期につれて絶え果てたり」という「曾根崎心中」の一節が思いおこされました。

思っておすと申しますと、おツ師匠さんとは、昭和二十七年の夏が、その初対面ではなかったでしょうか。

かつて、有楽町にありました毎日新聞社の七階。そこに、私が勤務をしていましたラジオ東京がありました。現在のTBSの前身ですが、まだ、邦楽番組も数多く放送され、午後の四時台には、二十分間ですが、毎日、いろいろな邦楽を、生演奏で放送しておりました。火曜日が浄瑠璃の時間で、七月の、ある火曜日に、スタジオで初めてお目にかかりました。今から四十年も前のことです。肌の白い、整った顔立ちで、眼だけを光らせて、まだ若輩であった私を、見すえました。正直のところ、怖いおツ師匠さんだと思いました。

「宿屋」だか、「油屋」であったか、夏にちなんだ曲であったと思いますが、猿幸さん

の三味線で語った、正味十八分半の演奏は、副調整室にいる私を楽しませてくれました。

終ってからは、実に印象的でした。

丸い顔に、鋭く輝いていた瞳が、柔和な眼差しとなり、「お疲れさまでした。」という私に、少し野太い声で「ありがとう」と応えてくれました。

以来、数多くのお仕事をお願いし、また、私が目黒に居を構え、おツ師匠さんも五反田にお住いになり、お世話になさっておられた春日とよ晴妙さんとのご縁もあって、個人的にも、親しくさせて頂いたくようになり、十数年という歳月が流れました。

ところで、今、こうして、おツ師匠さんの御魂にお別れを告げることは、私にとっては、信じられないことなのです。

入退院を繰り返されても、芸に執念を燃やし、不死鳥の如く蘇り、その芸故の再起を念じていたからなのです。

杖にも笠にも六字の名号、三瀬の川を越え行く旅路に赴こうとは、夢にも考えられませんでした。しかし、常世の国には、多くの仲間が、おツ師匠さんの訪れを待ち望んでもおられましょう。

三味線も 絃切れ夏の夜をうれう

悲しみは、現世に残った人の抱くところですよ。どうぞ、黄泉路を、ゆっくりと、たどっていただきたいと存じます。

平成四年八月二日

館野善二



あふれんばかりの生花に囲まれて

(撮影 高野俊雄氏)

土佐廣師を悼む

顧問 郡司正勝

大阪に転勤になったNHKの葛西聖司アナウンサーから、次のような挨拶状をもらった。ご一緒させて頂いた「野崎村」が、土佐廣さんの最後になりました。肩を落しておりませうという文言が添えられてあった。

一代の巨匠が逝って、われわれの女義の時代が終ったことを、「肩を落す」という言葉がよく現わしています。

雨の桐ヶ谷の斎場で、吉川英史ご夫妻や朝重師匠におめにかかったが、やはり肩を落していられる感じが、しみじみといたしました。若き頃、東橋亭に通っていたことを思い出しましたが、いまは亡き師の、あの重厚な三絃の底に秘められた華麗な音締は、いつまでも耳に残ることでしょう。

深く冥福をお祈りいたします。

(早稲田大学名誉教授)

本牧亭にて



(撮影 佐藤公夫氏)

土佐廣師匠と私

竹本朝重

私の七生迄の恩師、鶴澤重造師が、三味線ひきを志した頃、当時浅造を名乗っていた十二歳の少年は、名人三世鶴澤清六師の弟子でありました。或る日、清六師匠の大切な舞台の三味線のでんじんを粗相して欠いてしまいました。真青になっておわびをしてくれていた兄弟子の傍らに、浅造少年もわなわなふるえて居りました。清六師は、きびしいお顔で実に永い間(その様に思えたそうです)少年をにらみつけて居られましたが、やがて一言「浅造には、まだ三味線の有り難度味がわかるまい」それだけでした。少年はその時、この師匠の為には命もいらなと思ったそうでございます。そして、この師の弟子であられた事を生涯の誇りとされて居られました。ここ迄が、此の度逝去致されました竹本土佐廣師と私の事を綴ります序の章と申せましょうか。

さて昭和六十二年、恩師が世を去り、一年の喪が明けた頃、私は土佐廣師匠の御宅を訪れました。冒頭の三世清六師から直接教えを受けられた、おそらく現今唯一の御方であろうかと存じます。そして重造師とも、その頃

からの旧い友人でもあられました。

重造師病いに倒れられ永眠される迄、三年間お休みして居りましたリサイタルを復活、恩師に捧げる追悼の演目として、忠臣蔵四段目判官切腹の段をお教えたたくお願いの為でございます。そして翌くる年、清六師から御伝授された、お大切な「堀川」を切望してお教えたいただきました。勿論、その様な結構な「堀川」を、私如きが万分の一も表現出来ぬのはわかって居ります。しかし、恩師の芸の魂の系譜として、あこがれても居りました三世清六師から、じきじきのお声と三味線でお受け取りになられたという「堀川」を、九十歳を超えられた土佐廣師から、お稽古をしていただけました幸せは、大きな重いものでございました。

こうした、かけがえない喜びを私にお授け下さいました土佐廣師が、思いもかけず、七月廿七日夕刻、病院で息を引きとられる直前、不思議に(渋谷の稽古場へ行くべく地下鉄を降りようとした扉から土佐廣師の御長女が乗ってこられて御危篤と知らされました)間にあった枕辺で、師のお手をとって厚く御礼を申し上げる事が出来ましたのは、何んと深い御縁であった事かと、しみじみ思いました。それだけに、このお別れは、大そうつらいものがございます。

取りあえず今秋予定のリサイタルを取りやめ、土佐廣師匠の御冥福を深くお祈り申し上げます。次第でございます。

合掌

(義太夫協会副会長)

わが土佐廣

相談役 池田 弘

本牧亭の女流義太夫の番組が山と積まれて座右にある。しかし、その資料によって人間国宝竹本土佐廣を賛えることを他に譲り、私は、私の知った、いわば私の土佐廣を語る。

もちろん一人で語ってくれるのがいちばんよかった。しかし、掛合いでも、あの本下の伴左衛門などは私をゆさぶった。若狭之助・本蔵のかわりはあっても、あの伴左衛門だけはもうない。あれもこれも、土佐廣でなければできないものを、みんな持って逝ってしまった。悲しいことである。

しかし、私には、土佐廣に間に合って生まれ、間に合って本牧亭へ通えてよかったという喜びを残してくれた。しかも私は、土佐廣という人に会えて、話が聞けて聞いてもらえて、酒が飲めて、お愛想も言ってもらえたのである。「先生の長唄、この前の会よりいいです」、「今日ね、先生とサンのつもりで語りますよ」。私は己れのある限り、その喜びを語りつぐ。

酒豪だったという。その片鱗をちらっと見せることも十年、いやもう少し前まではあ

た。いつかの浅草での新年会の帰り、話はパテール館での初東上のことにかかのぼり、その大入りから当時の売れっぶりや興奮の面持ちで五反田まで語りつづけた。タクシーの運転手は彼女が車をおりてのち、圧倒されたという様子で、日本にそんな時代があったんではないかと言ひ、当時と今の彼女の年齢、芸位を聞いて驚嘆の声をあげた。

実に本牧亭の舞台を大切に、よく出勤した。好きな酒類を慎しんで、体調を、声調を整え、文字通りの研究を重ねて舞台にあがった。あの、お園のひと言、それにつづくどき、それがどんな意味を持つものなのか、私はじっくりと聴かせてもらった。

だからハネての後、下の「ほんもく」で目を細めて乾すビールはまことにおいしそうだった。わずか一ぱいの酒に虫をおさえて芸談に入る。うれしそうな顔をして何もわからぬ男女の学生に、芸の話をして、わかるようにわかるように話してくれた。いつまでもいつまでも本牧亭の庭の滝がとまってしまった後までも。

土佐廣の義太夫はわかる、いや、必ず誰を

も自然のうちにわからせてしまうものであった。現代の、今の身のまわりしか知らない若い女子学生が目を見張って土佐廣を見つめ、かたわらに身を寄せて、そっとその袖に触れて上気の吐息をついたのである。

その昔、あこがれの的のアイドルであった少女は、最晩年に至ってすべてを昇華して、またもやアイドルとなった。敬愛の的のアイドルに。それは、天下一の語り手の誇りを高くかかげながら俗にかえることをよくした人のみの至れる境地である。

もう一つ、私の自慢話を書きとめておきたい。昭和六十三年一月末日、私の家が新しくなって、ささやかながら人寄せをした。素義の大会とかがあって、土佐廣さんが顔を見せてくれたのは八時も過ぎていた。越道・素八、その門人たちも一緒に。東雲節が結構だった。五度も六度も、求めに応じて土佐廣は私と私の友人のために唄い、稽古してくれた。

格子づくりに小さい男、旦那くるなんとしよ。

わが生涯での最もぜいたくな時を過すことを土佐廣は許してくれた。

堂々と、かつ繊細緻密な芸。待ちこがれていたであろう相三味線、「よう弾かはった」と言っていた猿幸の三味線での土佐廣の浄瑠璃は、極楽世界の大法楽となることに疑いはない。

(神田外語大学教授)

本当に有難うございました。

亡き母、竹本土佐廣の逝去にあたり

春日とよ晴 妙

大変長い間お世話を掛け、本当に有難うございました。

何から書いて良いかわかりません程、思いが数々ございまして頭の中がまとまりません。告別式以来毎日来て下さる方がございまして、不自由な身体をやっと過ごして居ります中、とりとめがないのでございますが、まずは皆様に御礼を申し上げたく筆を取らせて頂きました。

吉川英史先生

本当に長い間の御指導と、数々の御心痛、そして並々なりませぬ御後援を頂きました。

先生の心温まるお導きが、母を一生義太夫の世界に没頭させ、そして、なんとか勉強しなければと思ひ起こされたのでございましょう。共に暮して居りました私も、寝ても覚めても義太夫にしか興味を持たず、自分の立場の義務を毎日努力して居りました母を見て、驚いて居た次第でございます。母は、神様（金光教）に感謝致して居りました。そし

て、吉川先生を心の底より御信頼申し上げ、いつも感謝致して居りました。本当に有難うございました。

田辺秀雄先生

義太夫協会会長御就任早々御迷惑をおかけ致しました。協会の将来をとても心配し、なんとか昔の盛んだった義太夫を世の中の方々に解って頂き、後援して下さる方が益々ふえる事のみ考えて、通ってこられるお弟子様方を叱咤激励し、お稽古に励んで居りました。

元より母の総ては、義太夫の中に登場して参ります老若男女の気持が、日常生活其のままの在り方でございました。其のため、人様からも誤解をされることもございましたが、たゞたゞ一生懸命義太夫を守りたかったほか何ものもございませんでした。

でも、御理解頂き、やさしく見守って下さった先生の御恩は決して忘れては居りませんでした。

本当に有難うございました。

館野善二先生

思い起こしますと、本当に先生のお名前を母から聞きましたのは、四十年前も前、TBSの頃の放送の話を良く私に聞かせて呉れました。其のうち、私が春日の人間だと先生も判って下さって、TBSで私も放送させて頂きました。思えば、そんなおつきあひから、其の後、ここ三十年程なにかとお世話になりまして、先生が義太夫協会の相談役となられ益々御縁が深くなり、親子共々御指導頂き、常に母の事にお心を頂きましたが、ついに此の度の事にあひなり、神に召されました。本当に有難うございました。

義太夫協会の皆々様

故竹本土佐廣は、昔の本牧亭公演をいつもなつかしがつて、昔其のままの公演四日間の姿を再現できると信じ、自分の心の中に思い浮べて、義太夫との生活に一生懸命でした。世の中が変わっても、自分が若い頃の義太夫の毎日は忘れることが出来ず、毎日毎日お稽古に来る方を待って居りました。

「週二回のお稽古なんて勉強にならない、覚えられる訳がない」と、私は毎日怒られていました。病院に居りましても、夜静かになると、大きな声を出して、一人でお稽古が始まります。そして、私の顔を見ると、「すぐ家へ連れて帰れ。お弟子さんがお稽古を待っている」と怒るのです。そんな中に、どなたかがお見舞いにいらして下さった夜などは大変興奮致しまして、血圧も上がりますので困

ることが度々でした。お見舞いをおおっしや
って下さった皆様に御遠慮申して居りました
のは、このような事情からでございました。
なにとぞお察し下さいませ。

五月末、私が共にベッドを並べ、入院して
居りました時は、『鳴門』を三十分、明け方
寝言で正しく語り、テープを持っていなかつ
た私はとても残念でございました。

顔を見る度毎に、「国立はどうなっている
の」「語りものは、お客様は入っているの」
「早く帰ってお稽古しなければお弟子さんが
困っている」と言われ、「私の身体が不自由
だから世話が出来ない、もう少し待っていて」
と申しましたが、「食事なんかお茶漬で良い、
すぐ帰る」と悲しそうな顔をして訴えて居り、
私も度々泣いて帰って参りました。

七月二十七日、午後二時、急に血圧が下が
り急変致しました。前日、土佐恵・土佐子に
も同様な事を申し元気でしたが、高齢の中に
又此の暑さには勝てずとうとう静かに深い深
い眠りに入りました。

生前の母は、「一度でも良いから満足する
義太夫を語ってみたい。芸は地位ではなく勉
強のみなのよ」と常に申しておりました。
長い間おつきあい下さった事をここに感謝
致し、厚く御礼申し上げます。

終りに臨みまして、義太夫協会の益々の御
発展を祈り上げます。

竹本 土佐 廣 三女
財団法人春日会評議員

合掌

おもいでエピソード

お弟子さんからも、ひとことづつ師匠の思い
出を寄せていただきました。

『義太夫やる者は因果や』：師匠が先輩
方によく言われた言葉だそうです。

「むつかしくて覚えられなくて、それで、
なまけるとすぐ下がる、なのに、どういう訳
か面白くてやめられない。本当に義太夫語り
って因果ね」義太夫好きのお父様の影響で自
然にこの道に入られた師匠は、こんなことを
よく口にされていました。亡き師匠のお顔を
思い浮べながら、私にとつての『因果や』に
しばらくこだわって寂しさを紛らわせてみた
と思います。

竹本 土佐恵

門弟として六年余り、お稽古場では厳しい
師匠も、見台をはなれて見せて下さる笑顔は
やさしく可愛らしく、いつも目に浮かびます。
過去いくどかの入院もその都度、驚異的な
早さで全快され舞台上に立たれておりました。
このたびでも病院のベッドの上で「帰って皆
の稽古をしなくては」とそればかりでした。
ある方のお言葉どおり、芸を持っていてしま
われてとても残念であり、さびしいことだ
す。きっと弟子のことを心配顔に見て下さ
ることでしょう。心より御冥福をお祈り申
し上げます。

竹本 土佐子

戒名のこと

石丸家の檀那寺、浅草の最尊寺御住職がつ
けられた土佐廣師の戒名は、糸浄院釋土佐廣
禪定尼。「糸」は、三味線の糸と土佐廣師の
本名いと、「浄」は浄瑠璃でしょうか。

「禪定」は霊山の頂きという意味で、それは
住職が「土佐廣師がチ・コンと座っている姿
が、体は小さいのに高い山の頂きを想わせた
こと」に由来するとのこと。

最尊寺の先代の永忠順住職と土佐廣師は、
よく昔話をされたとか。因に、先代は永六輔
氏の父上、現御住職・永敬順氏はしたがって
永六輔氏の兄上でいらっしゃいます。



声がかきこえてきそう… (撮影 藤倉 明治氏)

女流義太夫共和会あれこれ (六)

追悼 竹本土佐廣師

理事 竹 本 綾 太 夫

女義共和会が発足した昭和三十五年は、土佐廣師は円熟期の六十二歳であった。以後、女義の振興に寄与しつつも、常に新境地にチャレンジされ、その結果が女義初の人間国宝となられたのだが、三十年余その偉大な芸につぶさに接し、また人柄に接し得た私は幸せであった。こゝに私ごとに関わる二・三の思い出を綴って、哀悼の意を捧げたい。

◎「芸道六十年の会」のこと

昭和四十四年に、故安藤鶴夫さんの肝煎りでリサイクルを開くことになった。

「明後日、箱根に避暑に行くので、プロや宣伝などの詰めをしたいから、明日来てもらいたい。」とのことで、翌日、土佐廣師と共に、四谷のかの有名な鯛焼屋の横を通って、若葉町のお宅に伺った。

まずタイトルについては、紙に2Bの鉛筆で何通りかを黒々と書かれ、結局「竹本土佐廣芸道六十年の会」と決定した。

次いで安藤さんが、土佐廣さんに向い、「師匠の挨拶文の顔写真はどうですか。」

「これですけど、先生決めて下さい。」

「なんですこれは。娘さんの写真ですか。」

「いえ、私の二十代のです。」

「そんなの駄目ですよ。しかし綺麗だなァ。えーと次の：。これも若過ぎますよ。三十代でしょ。とにかく芸道六十年の顔写真なんですからね。」

「では、これを。」

「うーん、いゝ写真だけど二十年位前のも。もっと最近のはありませんか。」

「もうありません。」

「そんなことないでしょ。」

「絶対にありません！」

「うーん、致しかたない。これにしよう。しかしこれはサギだよなァ。」

かくして、その他いろいろと決まり、「土佐廣さん、いい会にしましょうね。」

の声に送られ辞したのだが、秋の会に、安藤さんの姿を見ることは出来なかった。

なんと、四谷で別れた数日後、安藤鶴夫さんは、箱根で急死されたのである。

プログラムの題字は、安藤さんの鉛筆書きを拡大し、用いさせていた。そして挨拶文には、かの「サギ写真」が載ったのである。

◎故高橋誠一郎さんのこと
前々芸術院々長の高橋さんは、義太夫協会の会には、よく見えられたが、これは協会顧問だからというのではなく、どうもお目当は土佐廣師のようであった。

或る時、一寸お伺いしてみたところ、「若い頃からのファンです。サシで何段も聴いたのは、私ぐらいのものでしよう。」

そこで後日、師にお尋ねした。「これはね、あまり知ってる人はないんだけど、子供を抱え舞台だけの収入では苦しかった頃、日本橋のお座敷を手伝ってた時期があったの。私を呼んで静かに一段聴いて、静かにお帰りになる有難いお客がいて、初めは大磯のお宅から通う高橋さんというお役人、としか知らなかったけど、それから何かと鼻肩にして下さった。後で何とか院の院長さんという偉い人になるとは思わなかったわ。」

芸道六十年の会の時、御指定の一番前の席で、ステッキに頸を乗せるようにして、静かに聴いていらした院長さんが眼にうかがふ。

◎国立劇場初出演のこと

昭和41年、国立劇場が開場してまもなく、劇場主催の東西女流義太夫会が企画された。

或る日、故吉田幸三郎先生より電話あり、「今度の会の企画は私がすることになった。」

東からは土佐廣・猿幸・重之助・三生の四人に出てもらう。世話物の土佐廣、時代物の重之助という世評を覆えて、逆にする積り。

女義の番頭である君はどう思うか。」

「もうこの人達ともなると、時代とか世話は超越しているので、話題性があって面白いと思う。土佐廣さんは寺子屋、重之助さんは酒屋がいゝと思います。」と、生意気にもこのようなことをお答えした。

語り物は、土佐廣師が熊谷陣屋、重之助さんは酒屋となった。特に土佐廣師はビックリして断り続けたが、先生に押しきられたようである。さすがの土佐廣師もビリビリして研鑽を重ね、ついに当日を迎えた。

幸三郎先生の企みは凶に当り、大々好評であった。終演後、ロビーで、

「どうです、良かったでしょう。重之助さんのお園、あんないゝ声が出るんですね。その上にも土佐廣さんは素晴しかった。殊にあの弥陀六のタテ詞などは、もう言うべき言葉もありません。凄い人ですね……。」

◎電話のこと

昔、本牧亭女義盛んなりし頃、番組その他の件で、多くの女義の人から電話がかゝってきた。たいてい家内が出るのだが、ついには「モシモシ」とかの第一声だけで誰かゝ分るようになった。その中で、土佐廣師だけはすぐ分ったという。受話器をとって、

「ヒオキでございます。」という、必ず、

「アノ、坊や達はお元気ですか。」と優しくお尋ねになったという。家内は、坊やと信じていられるのに、「いえ、女の子ばかり三人

です。」とはいえない性質なので、

「ハイ、元気にいたしております。」という

受け答えを永年続けていた。

師の計報を聞いて、「坊や達は……」というお声ばかりで、まだ一度もお逢いしたことのない師を偲び、家内はしんみりしていた。坊や達の一人は、先日嫁にいった。

竹内道敬先生

自腹をきって邦楽演奏家育成

竹内道敬先生（義太夫協会相談役・国立音楽大学教授）が『一曲の会』という活動を開始されることになりました。

「邦楽の危機が叫ばれていますが、ではどうしたらいいのか。研究者も数多く欲しいのですが、その前に演奏者がいなくなってしまうのは、なんにもなりません」（趣意書より）と、若い演奏家に演奏する場所と良い聴衆を用意して下さいます。会場は、歌舞伎座前の「文化堂レコード店九階サロン」、文化堂社長笹本氏は、会場の提供だけでなく何と金屏風まであつらえるという全面協力です。

義太夫協会でも、昨年1月より「女流義太夫の演奏者を目指す方はいらっしゃいませんか」と呼び掛けを続けておりますが、残念ながらはかばかしい効果はあがっておりません。義太夫教室や一日体験教室は、座布団が足りなくなるほどの盛況だというのに……です。

超々多忙な竹内先生が、益々忙しくなることを、自腹を切つてまで始められるのは、それほど、邦楽界が厳しい状況におかれているということの現れではないでしょうか。

?????
?????
クイズクイズクイズ正解発表
?????
?????
?????
?????
?????

前号の正解は、野澤松也さん（竹本||歌舞伎義太夫三味線）昨年の俳優祭でのあで姿でした。俳優祭を御覧になった方ならおわかりだったのでしようが、ノーヒントでしたから、チョット難しかったようです、反省します。坂東玉三郎さんとか、竹本越孝さんといった解答が目立ちました。正解者は、いわば身内だけで、一応抽選してみました。駒之助・綾太夫・綾貴世が当選ではクイズになりませんので、今回は正解ナンとさせて頂きました。悪しからず御了承下さいませよう。

さて、私は誰でしょう 第2弾!!

クイズ クイズ クイズ



ヒント 約80年前

* ハガキまたは電話で、10月末日までに事務局へ * 3名様に女流義太夫演奏会御招待券進呈（正解者多数の場合は抽選です）

協会の動き

'92年5月より
'92年9月まで

5月22日 女流義太夫演奏会「特集 義経千本桜」特別出演ー乙女文楽 桐竹

智恵子・人形劇団ひとみ座 宇野小四郎 於国立演芸場

5月24日 三味線の一日体験教室 希望者殺到、追加クラス実施 手ほどきー鶴澤悠美ほか

5月26日 於演舞場スペースアルファ 平成3年度民間芸術等振興費補助金(青少年等芸術普及)額の確定通知(4月30日付)

6月1日 義太夫教室第45期初級入門コース開講。72名受講。 於演舞場スペースアルファ

6月2日 平成4年度文化財保存事業費補助金の内定通知 於演舞場スペースアルファ

6月5日 選挙管理委員会 於文明堂

6月9日 公演部会 於事務局

6月10日 監事による会計監査 於事務局

6月12日 芸団協助成金申請書提出 於国立劇場

6月15日 平成4年度文化財保存事業費国庫補助金申請書提出 於文明堂

6月15日 芸団協総会 朝重副会長出席 於アーバンネット大手町ビル

6月23日 教師のための義太夫講習会「邦楽の教え方ー日本の音楽教育」企画構成講演ー竹内道敬 特別出演ー八王子車人形西川古柳座 昨年6月に続いて満席 於国立演芸場

6月25日 芸術文化振興基金平成4年度助成金額の内定通知(6月19日付)

6月26・27・28日 女流後継者育成事業 奥庭研修(野澤喜左衛門師指導) 於国立劇場

6月27日 義太夫協会通常総会 平成3年度事業報告・収支決算報告、平成4年度事業計画・予算案を審議、原案通り可決した。任期満了に伴う役員改選を行なった。(2頁参照)

7月9日 定例理事会 於文明堂

7月22日 女流義太夫演奏会「特集加賀見山旧錦絵」 於国立演芸場

7月23・25・26日 女流後継者育成事業 車曳研修(野澤喜左衛門師指導) 於国立劇場

7月24日 義太夫教室第45期初級入門コース閉講。66名卒業、27名皆勤。 於演舞場スペースアルファ

7月30日 常務理事会 於文明堂

8月3日 公演部会 於事務局

8月8日 公演部会 於事務局

8月23日 女流義太夫演奏会「特集 伽羅先代萩」芸団協助成 特別出演ー神奈川県立厚木東高等学校人形浄瑠璃部ひがし座OB会 国立移転後初の昼公演 於国立演芸場

9月1日 義太夫協会会報第55号発行 於国立演芸場

中矢勝子様 酒屋豆本 1冊

鶴澤宏太郎様 上り糸 多数

国立劇場様 文楽メモ 多数

浅田屋三味線店様 床本 22冊

象牙バチ 2丁

ヤッコバチ 1丁

野澤の面影 1冊

速報

土佐廣師 従五位
8月25日の閣議により、竹本土佐廣(本名石丸いと)師を従五位に叙することが決定されました。

〔手紙のページ〕

五月女流演奏会思ったまゝ、

(略)昔から女義太夫の事は聞いてはおれど現代まったくお目に掛る事も無く打ち過ぎて来たが、計らずも今回お誘いを受け拜見出来たのは、望外の事で嬉しかった。

開演前のみす内は、本当にみす越でやるのかと思ったら、いわゆる日本の謙譲の美德というか、やる事は本舞台のそれで、色鮮やかで且つ簡素な舞台に今を盛りの?女性二人が絆姿もりりしく語り出すと、早くも其の世界に引き込まれるが、始めは正直な処義太夫は矢張り男の物かとの感があった。

本番組は『義経千本桜』で「小金吾討死」から。越孝さんが髪振り乱し? (少しオーバーかな) 語ると男性には無い良い無味でのエロキューションが発散されて、成程「どうするだろう」と掛声が掛ったのもむべなるかなと合点がいった。

素八師匠の「鮮屋の段」になるとさすがにはもう男とか女とかの問題で無く、第一色気引く訳でも無いから本格物で大したもの、適当にアレンジして飽きさせず然も「縛って泣きき:」の辺り思わずこちらもジワッと来た。最高の出来で有る。

其の後、宇野小四郎氏の乙女文案についての解説が有り、是が大変参考になった。最後に「吉野山」、背景が絵屏風式で旨くやる物だと感心して居たら物語の時、合戦場に裏返ったのには驚いた。扇子投は旨く行かなかつたが、知らなければそれ迄の事で、後席の若

い女性が「もう最高」と感嘆して居たが、芝居と違って物語で静も共に立回るので、其の意味では派手で宜しい。只皆そちらに気を奪われてしまうので太夫連には気の毒では有るが、締めくくりには矢張り見栄えが有って宜しかったのではないか。一時雷鳴も轟く中では有ったが、出てみれば雨も上って居り誠に清々しい夜で有った。

足立区在住 重田 昭男

豊澤猿三郎様

御健勝およろこび申し上げます。「義太夫」随筆毎号おもしろく拝読しています。

さて前号の「お静礼三」の事に就き二三申し上げます。「今から六十年程前帝劇で」のあと幸蔵(紋二郎の父)は紋三郎の誤り。高麗造(現幸四郎の祖父)は明治四十四年既に七世幸四郎を襲名していますから、ここは七代幸四郎とあるべき処です。なお高麗造は高麗蔵が正しいのです。

以上気づきしまゝ、

賛助会員 岡本 靖彦

豊澤猿三郎からの伝言

このたびの御指摘まことに有難うございました。私も94歳とあいなりまして、日によって手が震えたりいたします故、口述筆記をさせましたため、大変に失礼を致しました。

連日の猛暑で少し体調を崩しましたので、涼しくなるまでしばしお休みを。

皆様もくれぐれも御自愛の程を。

祖先祭

初代竹本義太夫の命日(正徳4年9月10日)に因んで、初代義太夫ほか先人の墓参・法要ならびに懇親会を行います。回向院では、春に墓地の大整理工事をされたので、義太夫関係者の墓石は初代義太夫を囲むように大移動しました。

移動後初の祖先祭です、お誘いあわせご参加下さい。

記

*平成4年9月12日(土) 11時~1時

*両国回向院(三六三四) 七七七六

*参加費 千円

(木挽町辨松のお弁当があります)

*お申込みは9月9日までに事務局へ

日本料理 本牧亭

戦後40年間、女流義太夫に会場を貸して下さった本牧亭階下の「ほんもく」が、このたび日本料理「本牧亭」としてオープン。

上野広小路と湯島天神下のまん中あたり、二階のお座敷では、土・日に「講談定席」が復活しています。

* 文京区湯島3-1-43-10

* ☎三三三三三三三三

* 営業時間 5時~10時半 日祭休



中矢勝子(15才) 竹本組春(27才)

「普通一般席」と読める 昭和15年

戦争と女流義太夫

義太夫の一日体験教室に参加された中矢勝子さんが、「こんな写真があったから」と手ずれしてすっかり変色した写真を見せて下さいました。それは、中矢さんの初舞台(昭和15年)とのことで、乙女文楽と共演している写真でした。中矢さんに伺ったお話の一部を御紹介いたします。

父親が浄瑠璃が大好きだったので、私は竹本組春というお師匠さんの弟子にしていただけでした。組春の師匠は組之助です。この写真は初舞台、「太十」を語らせて貰いました。15才の時です。三味線は、師匠の組春、組春が28才でした。エ? めくりが豊澤組春となってますか、サア三味線だったのでそう名乗られたんでしょうか。大阪の新世界、通天閣のさきにラジウム温泉というのがあって、二階が大浴場でこんな舞台があったのです。入場料ですか、サアどうだったんでしょう? その頃、若い者は、着付け(編集部注・舞台用の着物)の袂が一尺五寸あるとしますと、下の五寸位に可愛いらしい小模様の布をつけて仕立てるんです。模様はだんだん地味にしていって、しまいは取ってしまうんですけど、いいもんでした。昭和16年か17年頃、相生師匠の内弟子に入って、師匠の家から挺身隊に通いました。ところが、戦争が厳しくなると「お稽古遠慮」とお上からいわれて、お

稽古もできなくなって……「伎芸証」という名刺くらいの黒紋付きの写真をはった鑑札のようなものがありました。

文楽も男の若い人がズンズン兵隊にとられたので、女の私たちも初めて楽屋に入れて貰えたんです。でも、楽屋のお手伝いはしてもブン廻しまでは行かせて貰えませんでした。3月13日、空襲で、大丸うら・周防町の師匠の家は丸焼け、四ツ橋の文楽座も焼けました。師匠も、私の両親のもとに疎開して、終戦でまた大阪に戻りましたが、女の人は戦後はみんなバラバラで……私もそのままやめてしまいました。

この写真は、満州の新京に姉がいたもので、姉に送ってあったものが残りました。たった一枚だけ戦火を免れたなつかしいものです。乙女文楽はいまも同じに活躍しておられるのでしょうか。私の初舞台が「太十」、一日体験も「太十」、駒之助お師匠さんのお稽古は久し振りで本当に楽しかったです。有難うございました。

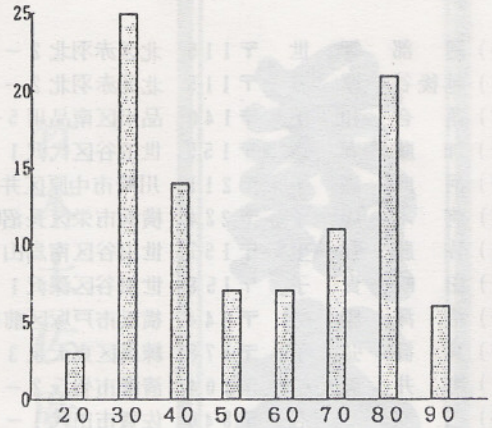
次のページのグラフは、義太夫協会加盟の演奏者の分布(平成4年3月末日調べ)です。ヨコは年代、タテは人数を表わしますが、おそらく他の邦楽分野でも似たようなグラフができるのではないのでしょうか。

もしも戦争がなかったら……?

戦争中の資料と、戦争を生き抜いて、今も現役、強くて可愛らしい女性たちの話題を――

昭和十八年三月二十六日「第二十八回竹本素女會」のプログラムが手に入りました。以前、古い女義の資料を沢山御寄贈くださった小泉嘉子さんのお宅にまだ一枚残っていたのだそうです。戦争中でも、こんな立派な会ができたのでしょうか。料金は、一、二階席が3円20銭、三階席が1円26銭（税共）。「切符はプレイガイドにも御座います」とあります。内容は豪華ですが、粗末な紙に、それでも2色刷で、折れ目もすり切れそうな、まさに時代を思わせるプログラムです。

会場は、築地東京劇場。演出演者数27人、そのうち今も舞台をつとめているのは、わずか2人、素八・駒登久両師のみでした。



素八さんといえば、バスケットひとつを下げて上京、竹本素女師に入門し、何と20年も内弟子を勤めた話が有名ですが——この写真、どこかでお目にとまりませんでしたでしょうか。芸団協発行の芸能・人間・探険誌「パフォーマー」夏号の裏表紙に大きく掲載されているものです。インタビュの内容といい、写真「森住卓氏撮影 日本写真家協会会員」といい、「飾らぬ素八師の人柄そのまま！」と御覧になった方はみな異口同音におっしゃいます。中には、「ここ（裏表紙）に素八さんのサインを貰うんだ」などという人も現われて、ちょっとした話題になっています。「パフォーマー」入手御希望の方は、義太夫協会までどうぞ。



他人に勝とうなんて思ったことない。芸がおもしろくて、好きだからやめずにつづけられれば、それでしあわせ。
素八

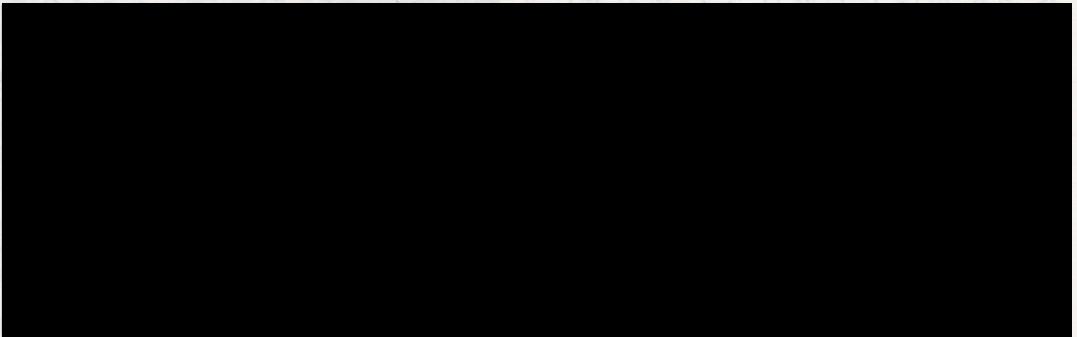


金さん銀さんといえば、いまや国民的アイドルですが、「墨田の金さん銀さん」と呼ばれる姉妹というと、さて誰でしょう？ 金さんとは駒龍師のお姉さんで、小唄の堀小三登師。銀さんとは、素八師と同一年の竹本駒龍師。80才を越えても丈夫で芸を続けている姉妹（双子ではありません。87と81才です）ということ、どういわれるようになったとか。4月には、タスキをかけて交通安全のパレードにも駆り出され（？）、飾れないほど大きな額にはいった感謝状を貰われたそうです。「きまり悪いったらありゃしない、黙ってちょうだいよ」と駒龍師はいわれるのですが、小三登師からソツと拝借したお写真を御紹介してしまつた次第。名古屋の金さん銀さんに負けず益々のご活躍を。

新入会員御紹介(五十音順・敬称略)



住所(住居表示)等変更



会員名簿整備

来年のお正月には、新しい会員名簿をお届けしたいと思います。
つきましては、住所変更・住居表示変更等がございましたら、事務局まで御一報下さい。また広告掲載も可能です、どうぞ御相談下さいませよう。

編集後記

残暑お見舞い申し上げます。本号は、義太夫教室や、三味線の一日体験教室などの特集となる予定でしたが、土佐廣師の訃報に接し、急遽「土佐廣師追悼号」となりました。

電車が発車しそうになると、階段を駆け上がってしまう土佐廣師、時には失敗して転んでしまい、それを内緒にしてネと口止めする土佐廣師。立ち上がる時「ヨッコラショ」とテールに手をつく私どもを尻目に、スイと立ってしまった土佐廣師。修業時代、師匠の家まで毎朝テコテコテコと歩いたその距離は片道6キロといえますから、それが芸と体の礎になっていたのでしょうか。

土佐廣芸談は義太夫協会会報第25号(昭和57年8月20日)第26号(57年10月20日)第38号(61年8月12日)に掲載されています。

4月に三代目竹本綾之助師を失い、この度は人間国宝・竹本土佐廣師を失って、悲しいけれども、悲しがつてばかりはいられない局面に女流義太夫は立たされました。